

令和6年度第1回仙台市市民協働事業提案制度検討会 議事要旨

- 日 時：令和6年8月22日（木） 14：30～19：00
- 場 所：仙台市市民活動サポートセンター 市民活動シアター
- 出席委員：青木ユカリ委員長、大橋雄介委員、神尾真大郎委員、中嶋紀世生委員、
波多野卓司委員、柴田由紀委員
- 事務局：市民局長、市民協働推進課長、市民活動推進係長、他担当職員

○次第

- 1 開会
- 2 市民局長挨拶
- 3 委員紹介、委員長選任
- 4 検討会の運営について
- 5 令和5年度実施事業報告会 兼 令和6年度実施事業中間報告会
- 6 令和5年度実施事業および令和6年度実施事業の評価
- 7 閉会

○会議内容

1 開会

市民局長より委嘱状交付

[事務局（市民活動推進係長）]

- ・委員6名中、本日は6名が参加。出席が過半数を超えており、仙台市市民協働事業提案制度実施要綱第6条の2第3項の規定に基づき、会議は成立する。

2 市民局長挨拶

（省略）

3 委員紹介、委員長選任

[事務局（市民活動推進係長）]

- ・委員長は、委員の互選により定めることとなっている。委員の皆様からご提案をお願いしたい。

[中嶋委員]

- ・これまでの実績と高い見識から、青木委員を委員長に推薦させていただきたい。

[事務局（市民活動推進係長）]

- ・ただいま委員長に青木委員を推薦いただいたが、皆様いかがか。
（一同、賛同）（青木委員 了承）

4 検討会の運営について

[事務局（市民活動推進係長）]

- ・資料1に基づき説明

[青木委員長]

- ・議事録署名人については、出席者の中から五十音順で指名したい。今回は大橋委員をお願いしたい。

（大橋委員 了承）

5 令和5年度実施事業報告会 兼 令和6年度実施事業中間報告会

市民協働推進課長挨拶

（省略）

委員紹介

（省略）

事業報告および担当課報告

（省略）

質疑応答

次ページのとおり

事業名：七北田公園から発信する杜の都のシビックプライド～あらゆる主体を巻き込んだ、
更なる七北田公園の利活用の促進～

団体名：7DAYS, Peace.（七北田公園活性化協議会）

担当課：建設局公園管理課

[大橋委員]

- ・この制度が終わった後の取り組みはどのように考えているか。

[公園管理課]

- ・七北田公園のにぎわいというのは、今回の事業でも検証した通り、必要なものであると考えている。その中でも今回実施したカフェのような飲食施設は、市民の方からのニーズも高い施設であり、常設化も積極的に考えていきたい。
- ・公園のソフト面の利活用についても、利活用できる体制づくりに関して行政や市民団体と連携して実現できたらと考えている。

[神尾委員]

- ・新規の来訪者を増やしていく中で、どのようなニーズがあるか、データも使いながら日頃の活動に生かしているのか。

[7DAYS, Peace.（七北田公園活性化協議会）]

- ・年代別のデータが出てないが、肌感としては、小学生、親子連れ、年配の方が公園に多く来ていると思う。一方で、高校生や大学生はあまり来ない。そこでライトアップイベントを行ったところ、高校生たちが来るようになった。
- ・我々の思いもよらない効果が出ることもあるので、様々なことをもっと仕掛けていきたい。

[公園管理課]

- ・補足すると、通年の公園利用者のデータをとることができた。その中で、猛暑もあり、夏場の公演利用が相当落ちることが改めてわかった。一方で、寒い12月でも、公園緑地協会で行ったイルミネーション期間は、夏より来園者が多いということがわかった。
- ・以上のように、データを活用し、夏場の利用対策として夜間のイベントを行ったり、或いは水遊びのイベントを行ったりと、イベントの中身を工夫している。

[青木委員]

- ・今後、仙台市でも公園の利活用方針を検討するということがだが、この事業で実践したことによって様々なヒントがあるのではないかと感じた。
- ・この事業に関わった人や、地域の方、関心のある方が、主体的に関われるとよいのではないと思う。ここでサービスを受ける側から、サービスを提供する側に変化をしていく機会も、作ることができるのではないと思う。

[波多野委員]

- ・取り組みを見ていて、打ち合わせや検討の機会がとても多く、大変良いなと思った。団体と市とのコミュニケーションの量がそれだけあればいいものになると期待している。

事業名：困難を抱えた若年女性の居場所確保・自立支援事業

団体名：NPO 法人ほっぷすてっぷ

担当課：市民局男女共同参画課、こども若者局こども家庭保健課

[波多野委員]

- ・退去した人も、何かあったときにまた頼れるような繋がりがあればいいと思った。

[ほっぷすてっぷ]

- ・退去した人とはLINEで繋がっているので、何か困ったことがあると、LINEを通じてスタッフに相談が来たりする。また、一人暮らしの方にはこちらからも時々連絡をとり、食料を持っていくといった支援も行っている。繋がりはずっと持てたらいいなと私たちも思っている。

[神尾委員]

- ・このような活動は本当に意義があるところでありながら、潜在的には課題の当事者がまだまだ多くいると思う。この課題をより広がりをもって解決していくためには、この制度を通して作られた事業モデルを、他の地域や他団体が活かしていくことが大切だと思った。専門的な支援機関の方々に加えて、地域の方との協働のあり方みたいなところも、今後きっと問われてくるだろうなと話を聞きながら考えていた。

[ほっぶすてっぷ]

- ・地域の中で、地域の方々の力を借りながら共存していくのが理想的だろうと思ってはいるが、今は事業を進めることで精いっぱい状況である。また、人件費をどう工面するかが常に課題としてあることから、体制が安定してくると見通しが立ってくると思う。

[中嶋委員]

- ・毎年入居希望者も増えているということからも、社会的なニーズの高さを感じた。市外からの入居もあるようなので、県とも連携することも大事かと思う。ぜひサポートできるような体制づくりをお願いしたい。

事業名：次世代の防災意識を高めるー多様な視点で避難所の設計図をつくるー

団体名：特定非営利活動法人イコールネット仙台

担当課：まちづくり政策局防災環境都市推進室

[中嶋委員]

- ・小中学校の生徒を対象にワークショップを行っているということで、東日本大震災を体験されていない生徒に対して、実際にこの活動をする中でどのような工夫をしたのか。
- ・また、実際にワークショップを体験した生徒から体験後にどのような反応があったか。

[イコールネット仙台]

- ・東日本大震災当時の様子はワークショップの冒頭で「SORA」を活用しながら説明した。また、東日本大震災当日の様子は、生徒たちも両親や学校の先生などから聞いている部分もあると思う。さらに、今年の1月1日には能登半島地震が起きたこともあり、小中学生でも、困難を抱える人たちに寄り添う場面を想像したり、意識を持つということが十分できていることを今回の取り組みで実感している。

[波多野委員]

- ・素晴らしい取り組みであるので、活動の状況について、団体のホームページなどで発信していけるとよいと思った。

[イコールネット仙台]

- ・他の活動もあるが、優先順位を考えながら発信していこうと思う。

[青木委員]

- ・生徒たちのタイトルのつけ方をみても、このような発想もあるのだなと頼もしさを感じた。
- ・実際にワークショップに協力してみて、協力団体はどのような発見や変化があったか。

[イコールネット仙台]

- ・ワークショップ開催前は、協力団体から生徒たちにいろいろと働きかけていく必要があるかもしれないと思っていたが、ワークショップを始めてみるとそういうことはなく、生徒から様々なアイデアが自然と出てきたことにとっても驚いた。生徒から学んだことが多かった。

事業名：若者・子育て世代を支援する地下鉄駅前にぎわい創出事業

団体名：八木山地区まちづくり研究会

担当課：都市整備局地下鉄沿線まちづくり課

[大橋委員]

- ・とても多くのイベントを実施しているようだが、なぜ今までこの場所の活用があまり進まなかったのか。

[八木山地区まちづくり研究会]

- ・八木山動物公園駅前の許認可関係の課題が大きかった。
- ・また、今回活用が進んだポイントがいくつかある。1つは子育てのグループの方が活躍できるような仕組みを月1回のイベントという形で作ったこと、もう1つは、若い方たちにある程度任せる環境を作ったことである。もともとあった八木山地区のネットワークにその部分を加えて実施している。

[神尾委員]

- ・今後は子育て世代の若者層を担い手として育てていくという話があったが、担い手を育てていくために取り組まれていることや、今後のビジョンはあるか。

[八木山地区まちづくり研究会]

- ・八木山地区に住んでいる方たちをうまく組織化して、自由に新しい発想できる土壌をつくり、イベントをやる上での規制を乗り越える方法をまとめていくということを今年度は考えている。

[青木委員]

- ・新しい活動グループというのはこの事業をきっかけに生まれたのか。

[八木山地区まちづくり研究会]

- ・実際に現在20グループに関わっていただき、そのうち半数ぐらいは新しく作られた。
- ・既存のグループだと、八木山以外の地域から吉本興業さんやグレートデンプリューイングさんやジバーFOODさんなどに来ていただき、新しい繋がりをネットワークとして広げている。

事業名：市民参加型新喜劇「ふるさと劇団」立ち上げ、運営

団体名：吉本興業株式会社

担当課：文化観光局観光課、文化観光局文化振興課、経済局商業・人材支援課

[柴田委員]

- ・今回、演劇を作って発表するところまでが1つの取り組みではあるが、この事業を通して生まれた賑わいが途切れないように、今後に向けて何か、すでに考えていることはあるか。

[吉本興業]

- ・今回作る演劇や台本を吉本興業で独占するつもりは全くなく、市内の劇団や学校の演劇部などにも使ってほしいと思っている。また、演劇部だけではなく、例えば学校の文化祭で使いたいという場合でも、脚本をフリーで使っていただければと思っている。
- ・メディアも活用してこの取り組みについて周知していきたい。
- ・ワークショップも8月に始まったが、この取り組みを今後も続けていき、吉本のお笑い文化というよりもみんなで楽しんでワイワイできるような文化づくりを、我々がお手伝いできたらなと思っている。

[青木委員]

- ・応募した方はオーディションの全日程に参加することになるのか。

[吉本興業]

- ・オーディションの日程の中で、応募者の都合がいい日程に来ていただくよう考えている。まずは一度、いずれかの日程で応募者全員とお会いして何名かに絞り込み、11月のオー

ディションで最終的に決めていくという形にしたいと思っている。

- ・できるだけ多くの方に舞台に上がっていただきたいが、舞台の広さも限られており、1人当たりの露出度も低くなってしまうので、人数を見て考えていきたい。

事業名：データに基づいた高等学校等就学支援プログラムの開発と実践—生活保護受給世帯を中心に—

団体名：特定非営利活動法人アスイク

担当課：泉区保護課

[波多野委員]

- ・今回、調査の母数が少なかったということだが、行政側でテーマを投げかける際に事前に把握する方法はなかったのか。

[泉区保護課]

- ・いろいろと検討しながら事業の募集をしたつもりではあったが、抽出できるサンプル数やデータの取り扱いについて、事前にさらに踏み込んで想定できたものがあったと思う。

[柴田委員]

- ・もともと法人の事業として、中途退学未然防止の事業や子供関連の部署と連携した事業を数多く行っているようだが、今回、泉区保護課と取り組むことで、連携が進んだところはあるか。

[泉区保護課]

- ・本事業での連携前にも、生活保護を受けていて中高校生の方がいる世帯に対しては、アスイクさんの事業のパンフレットを送ることはしていたが、今回の事業を通してアスイクさんと保護課の職員との人の繋がりができた。

事業名：インクルーシブカルチャースクール

団体名：一般社団法人 MOTTO

担当課：教育局生涯学習支援センター

[神尾委員]

- ・この事業としてどのような波及効果をイメージしていたのか。
- ・さらに、既存の支援サービスと連携や協働するといったところも、何かデザインしていたのか。

[MOTTO]

- ・次の展開としては、会費制なら参加できるのか、お金がかかったら参加できないのか、実際の生の意見を聞きながら、どういった形で進められるのかを検討している。
- ・障害が重くなるほどどうしても移動手段が大変になる。移動手段に関しては、今後シェアタクシーといった形をとるのか、送迎を出せば参加できるのか、展開を考えている。現在、法人で送迎車を準備して回る体制を整え終わったので、今年度はどこまで可能かを検証し、次につなげていきたいと考えている。
- ・既存の福祉サービスだと基本的には見守りがメインであるので、この事業は福祉サービスとは分けをして、本人たちがやりたいことができる環境をつくり検証するという形で実施してきた。

[青木委員]

- ・制度を活用した事業は令和5年度で終了であったが、地域の方や協力者の方々の関わり代がつけられるものなのか、そのあたりはいかがか。

[MOTTO]

- ・今回のプログラムではないが、地域の施設では毎週トレーニング施設に一緒に通ったりすると、一般のお客さんが挨拶してくれて、「頑張っているね」といった声かけを重度の障害の方たちもいただけるような場面がみられた。

- ・また、指導側については、実際に重度障害の方たちと我々が一緒に行って参加することで、講師の方が抱いていた心理的なバリアが下がり、重度障害のある方たちにプログラムを提供するにはどうすればいいかということ、一緒に考えてくれる機会が広がったと感じている。

[柴田委員]

- ・例えば、生涯学習支援センターを通じて、他の市民センターなどに今回の事業を通じての知見などを広めるような機会はあるのか。

[生涯学習支援センター]

- ・生涯学習支援センターでは、今回の事業を通して、各地区館への障害のある方が参加をされる講座の展開を進めているところである。機運としては、障害のある方も一緒に取り組めるような講座を企画するような形にはなっている。

事業名：障害者のお金のお勉強会

団体名：特定非営利活動法人障がい者の暮らしとお金の相談室

担当課：健康福祉局障害企画課、市民局消費生活センター、教育局生涯学習支援センター

[波多野委員]

- ・この取り組みは本当に大切なことであるので、何かしらの形で続けていただきたい。

[大橋委員]

- ・アンケートの結果のところ、参加者に対してお金の使い道の変化があったかを質問しているようだが、これはどのタイミングで取ったものなのか。

[障がい者の暮らしとお金の相談室]

- ・このアンケートは3回目以降で取ったものである。前回から2週間なり1ヶ月程空いているが、回数を重ねるごとにどういった変化があったかどうかを参加者に伺った。

6 令和5年度実施事業および令和6年度実施事業の評価
(非公開)

7 閉会

〈議事録署名人〉

[委員長]

青木 工(り)

[署名人]

大橋 雄介